

北海道大学大学院農学院の教育課程編成・実施の方針

(カリキュラム・ポリシー)

大学院農学院では、農学及び関連領域に関する基礎的または専門的素養を有し、食料の需給及び安定供給、食の安全、地球環境保全、バイオマスの利活用等の人類共通の課題に対応することができる多様な知識及び判断力を有する人材の育成を目標に、以下のとおりカリキュラムを編成・実施する。

■修士課程

1. 人類の生存基盤に関する現状と課題を俯瞰的に捉える能力を養成するため、必修科目に分野横断広域型科目を開設する。
2. 高度な先端専門科学の知識と技能を伸ばすため、必修科目に先端科学のエッセンスを伝える科目をすえ、後の選択科目で個々の専門性をさらに高める。
3. 課題発掘、分析、解決において独創的な研究の遂行力を養成するため、問題発見能力、問題解決力、独創性の萌芽を生む必修科目を設置し、後に配置する選択科目でさらにそれらの醸成を図る。
4. 和英コミュニケーション及びプレゼンテーション能力を通じた協調・連携・発信能力を高めるため、必修科目でリーダーシップを培い、国外研修も国際交流系科目として選択可能とする。

■博士後期課程

1. 先端的分野の開拓へ向けた広く高度な知識と技能を養成するため、自身の研究背景やその周辺情報に関わる演習を必修科目として設定し、その充実を図る。
2. 主体的に企画、推進、遂行し、独創先導的成果を生む力を養成するため、博士論文研究及び演習を必修科目に、国際交流系科目（海外研修・研究）を選択科目として設定する。
3. 高度な論文作成、プレゼンや和英コミュニケーション力を養成するべく、インタラクティブな演習及び国際交流系科目を各々必修及び選択科目として配置する。
4. 教育研究の場での指導する力を培うため、ティーチング・アシスタントやリサーチ・アシスタントとして教育研究に携わる機会を設ける。

学修成果の評価の方針

I 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、本学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる「養成する人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）」を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の学修成果の達成度に応じて行うこととする。
2. 本学院における授業科目では成績分布の目安は示さない。ただし、「秀」の人数は20%程度までを目安とする（履修者が少人数の場合を除く）。
3. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されていることと、それに基づく成績評価の結果を、半期ごとに教務委員会で検証し、コース会議で報告する他、必要に応じて担当教員に「到達目標」の再検討を依頼する。

II 成績評価の方法

1. 成績評価は原則として、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行う。
2. 授業への出欠状況を単に点数化し評価に用いることはできない。
3. 具体的な評価方法は、授業担当教員が定める。